

ワークショップ「甲冑を着てみよう！～日本の甲冑のお話と模擬甲冑の試着～」の報告

長谷川 明香（当館学芸員）

はじめに

令和 6 年度の大磯町郷土資料館の新たな取り組みとして、ワークショップ「甲冑を着てみよう！～日本の甲冑のお話と模擬甲冑の試着～」を開催しました。

ここでは、本ワークショップの概要と開催模様についてご紹介します。

ワークショップの趣旨と概要

本ワークショップを開催した経緯は、当館に所蔵されている伊藤博文の甲冑の存在です。この甲冑は伊藤から大磯小学校に寄付されたもので、元々校長室に置かれていました。その後、当館に移管を受けたもので、現在はエントランスに展示しております。

来館される方のなかには、この甲冑に興味を持たれ、写真撮影をする方も多く、甲冑への興味関心の高さを日々感じておりました。そのような状況を鑑み、甲冑への理解を深めてもらうべく、このようなワークショップを開催することにしました。

ワークショップの内容は、甲冑の仕組みに関する講演と模擬甲冑の試着でした。事前予約制で 19 名の方にご参加いただきました。小学生の子どもから 70 代の大人までと幅広い世代にお集まりいただき、様々な方が甲冑に興味を持っていることを感じました。

甲冑の仕組みに関する講演と模擬甲冑の試着

ワークショップの前半では、甲冑の仕組みに関する講演を行いました。講演は神奈川県立歴史博物館の学芸員である梯弘人氏に賜り、甲冑の大まかな分類と特徴、用途に合わせた制作方法、使われている素材などを分かりやすくご説明していただきました。また、当館所蔵の伊藤博文の甲冑を分析された結果もご紹介いただき、当館としても非常に有益なお話でした。

後半では、模擬甲冑の試着ということで、手づくり甲冑をご自身で製作されている荻野龍子氏と高垣元氏の協力を得て、模擬甲冑の試着を行いました。甲冑は手作りと思えないほど精巧で、重みもあり、参加者の皆



講演の様子



模擬甲冑



試着の様子

さまに非常に喜んでいただきました。

今回、初の試みであった当ワークショップは無事盛況に終わり、改めて甲冑への興味関心の高さを認識しました。今後も来館者の皆さまに喜んでいただける企画を考えて参ります。